



今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進による物流現場改善は、大きなテーマです。そのためには、現場力の向上やITの導入に力を入れていく必要があります。ただし、ヤミクモに多額の投資を行っても大きな成果は得られません。ここでは物流業務改革に向け、知恵と工夫およびITで物流現場の課題を改善していった事例について紹介します。

知恵と工夫による事例

手書きの「待機時間ノート」の導入

課題

納品先での待機時間が長く、ドライバーの拘束時間に影響していた。また、アプリなどに不慣れなドライバーも多く、デジタルでの情報共有には対応しきれない現場もあった。

対策

誰もが自由に書き込める手書きの「待機時間ノート」を導入。各ドライバーが配送先での待機時間、混雑時間帯などの情報を記録して、休憩室に置いた。

効果

- ・待機状況などを事前に把握でき、無駄な待機を回避。
- ・「誰かの気づき」が「現場全体の改善」につながる好循環が生まれた。

〈改善前〉

- 初めての配送先で待機時間が長くなることが多発。
- 「どのゲートに入る?」「何時が混む?」などが不明。
- SNSやアプリでは情報が共有できないドライバーが多数。



〈改善後〉

ITリテラシーに不安があるドライバーも含め、誰でも無理なく情報の書き込み・確認ができる手書きの「待機時間ノート」を導入。

- 初めての現場でも事前に混雑状況を把握し、無駄な待機を回避。
- 拘束時間が短縮され、次便の運行にも余裕を確保。
- ドライバー同士の情報共有と現場連携が活性化。

ITを活用する事例

TMS※と自動連携 ※Transport Management System

課題

車両の空き状況、ドライバーの勤怠情報、荷物の情報がバラバラに管理されていて、配車表の作成に時間がかかっていた。TMS(輸配送管理システム)も導入されていたが、使いこなせず、結局はExcelや手書きでの対応が続いていた。

対策

ドライバーの勤怠情報(勤務時間・休憩時間など)、荷物の情報(数量・納品先など)を、それぞれTMSと自動でつながる仕組みを整備。

効果

- ・配車に必要な情報がTMS上でまとまり、確認の手間を削減。
- ・他の業務(作業進捗確認や運行管理など)との連携もしやすくなり、業務効率が向上。作業時間削減と輸送コストの低減を実現。

〈改善前〉

- 車両、ドライバー、荷物情報などがバラバラに管理されていた。
- TMSが形骸化しており、結局、情報は手入力になっていた。



〈改善後〉

車両の空き状況、ドライバーの勤務時間、荷物情報などをTMSに自動連携して一元管理。手入力を極力削減し、手動は判断が必要な場合のみに限定した。

- 手入力が減り、配車がスムーズに。
- 配車表の作成における時間短縮・ミス減少。

鈴木 邦成 (すずき くにのり)

物流エコノミスト、日本大学特任教授、博士(工学) (日本大学)。早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(倉庫)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。